



報道発表資料

2000年7月24日
インフォテリア株式会社

インフォテリア、iPEX 2.0 / COM 対応版を出荷

～ Visual Basic での高度な XML 対応ソフト開発や Active Server Pages での XML 活用に ～

インフォテリア株式会社（東京都品川区、代表取締役社長：平野洋一郎）は、7月24日より高性能 XML 処理エンジン「iPEX 2.0（アイベックス）/COM^{*1} 対応版」の出荷を開始しました。iPEX 2.0 / COM 対応版は、従来通り Visual Basic や ASP^{*2}（Active Server Pages）など COM 対応開発環境における XML 対応ソフトウェアの開発を容易にします。さらに、今回のバージョンアップにより強化された点は以下の通りです。

- ◆ XSLT^{*3} 1.0 勧告対応
- ◆ Xpath^{*4} 1.0 勧告対応
- ◆ URL 指定による XML データ読み込み（HTTP / FTP）
- ◆ DOM Level 2 仕様（一部：Namespace 処理など）への準拠
- ◆ 処理速度の更なる向上

今回のバージョンアップで、iPEX 2.0 の仕様である XML の入出力・編集および XSLT 仕様による XML の変換機構、インターネット経由での XML データアクセスが COM 環境から可能になり、より高度なアプリケーション開発を実現できます。

iPEX 2.0 は、新仕様の他にも W3C の XML1.0 勧告、DOM Level 1 勧告、XML Names 勧告などの標準仕様に準拠した XML 処理エンジンです。

<製品概要>

■ iPEX 2.0 (アイペックス) / COM 対応版

- 概要：
- ・ COM 開発環境での XML アプリケーション開発ライブラリ
 - ・ XML データの入出力
 - ・ XSLT による XML データの変換
 - ・ インターネット経由での XML データへのアクセス

価格： 40 万円より

稼働環境： Microsoft Windows 95 / 98 / NT4.0 / Windows 2000
Visual Basic 6.0 以降

出荷日： 2000 年 7 月 24 日

インフォテリア株式会社について

インフォテリア株式会社は、1998 年に設立された国内唯一の XML 専門ソフトウェア会社です。インフォテリアでは、先進の XML テクノロジーをベースに、XML の普及を促進するコンポーネント製品や、エレクトロニックコマースでのデータ交換を XML ベースで行うためのツールとサーバー製品などを提供しています。

###

インフォテリア、Infoteria、iPEX はインフォテリア株式会社の商標です。その他の製品名やブランド名は各社の商標または登録商標です。

<用語説明／注釈>

*1 COM (コム)	Component Object Modelの略。マイクロソフト社が提唱している、部品化されたプログラムを作成・利用するための仕様。この仕様に従ったプログラム間のインターフェイスが統一化されるため、ソフトウェアを部品化して容易に組み合わせて使用できる。
*2 ASP (エーエスピー)	Active Server Pagesの略。Windowsプラットフォーム上で、ウェブページを動的に作成するための仕様の一つ。マイクロソフト社が独自に策定。近年話題になっている、ASP (Application Service Provider)とは別物。
*3 XSLT (エックスエスエルティー)	XSL Transformationの略。XSLは、Extensible Stylesheet Languageの略。XMLデータにスタイル付けを行ったり、XMLのデータ構造を変換するための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。 ※参考情報→ http://www.w3.org/TR/xslt
*4 Xpath (エックスパス)	XML Path Language。XSLTおよびXPathで使用するXMLデータ内の指定を行うための標準仕様。1999年11月16日にW3Cより勧告された。 ※参考情報→ http://www.w3.org/TR/xpath

<お問い合わせ先>

info@infoteria.co.jp

(電子メール)

<http://www.infoteria.com/>

(ウェブサイト)

以上